

1 事業内容等

教育活動区分	⑦地域におけるにぎわいの創出
教育活動テーマ	あきおおた国際音楽祭参画による地域の活性化
連携する市町	安芸太田町
連携する企業・団体等	あきおおた国際音楽祭実行委員会

2 活動の目的

あきおおた国際音楽祭は、安芸太田町において唯一世界で活躍する演奏家の音楽に触れることのできる重要な文化イベントである。この音楽祭開催は、町の活力向上やにぎわいの創出につながっており、圏域内市町の住民の交流の機会のもととなっている。少子高齢化が進む中、イベントを運営する上で若者の参画も重要なものとなってきている。そこで、高校生がイベントの企画・運営へと携わることで継続的な実施について検討・提案を行い、さらなる安芸太田町の活性化につなげることを目的とする。

3 活動の内容

- ① 実行委員会と連携し、企画・運営等を行う。
- ② 配布するパンフレットの作成に携わる。(プログラムノートの作成等)
- ③ 実行委員会と連携し、安芸太田町内の企業へ広告・協賛の依頼を行う。
- ④ SNS等で音楽祭の告知を行う。

4 期待される効果

企画運営から生徒が携わり、世界的に活躍されている演奏者の方々と交流することができる貴重な体験となる。また、生徒自身が運営をする過程で行動力やコミュニケーション能力が高まり、将来様々な企画運営の中核を担うなど、人材育成にも

つながることが期待できる。さらに、地域企業への協賛金の広告依頼を行うことを通して生徒自身が地元の方々と関りを持ち、交流の機会を広げ、高校生と地域のつながりがさらに深まることが期待できる。

5 実施スケジュール

令和5年度		5年前からあきおおた国際音楽祭に携わり始め、3年前から企画・運営にも携わるようになった。
令和6年度 (実施年度)	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽祭の企画、運営を実行委員会と連携し行う ・演奏家から提示された曲目をもとにパンフレットの作成 ・安芸太田町内の企業へ広告・協賛依頼 ・SNS等での音楽祭の告知
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等での音楽祭の告知 ・あきおおた国際音楽祭の前日準備、当日運営の実施
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・成果報告資料、実績報告資料の作成
令和7年度		令和6年度までの実施内容等を踏まえ、引き続き継続的に事業の実施に取り組む。

6 活動の報告および成果

あきおおた国際音楽祭に携わりだした当初は、本番前日の会場ホールの反響版の組み立て、および当日の解体をボランティアとして参加するにとどまっていたが、実行委員会や町民、参加した多くの演奏家の要望もあり、令和4年度からは反響版組立・解体に加え、会場受付やプログラムノートの作成等に携わるようになった。令和6年度は前年度に続きピアノ：加藤洋之^{かとうひろし}氏、ヴァイオリン：水谷晃^{みづたにあきら}氏、チェロ：横坂源^{よこさかげん}氏の3名をトリオとして、さらに今回は大鼓奏者の大倉正之助^{おおくらしょうのすけ}氏をお迎えすることになり、本校生徒が受付から司会進行、会場内での演奏家や来賓の案内も行うことになった。

本格的に実施する9月以前から、実行委員会と代表生徒（今回においては本校軽音部部長をはじめとする生徒4名）で数度の打ち合わせをしており、9月からの動きについて事前に打ち合わせを行ってきた。実行委員会や部顧問に助言をもらいな

がら必要な役割から考え、9月からの動きについて考えていった。9月に入り、活動の主は町内企業への広告・協賛依頼と、プログラムノートの作成であった。本校軽音部部員全員を7つのチームに分け、安芸太田町内各企業へ協賛依頼に赴いた。はじめは実行委員会役員とともに伺い、その後は部顧問の指導の下、生徒たち自身で各企業にアポイントメントをとり、協賛依頼活動に努めた。結果、協賛いただいた企業全体のおよそ40%を占めることになり、生徒たちは一つの演奏会の実施に多くの人々やお金がかかっていることを実感することとなった。また、協賛いただいた企業の多くが「高校生が主体となるならば」と好印象を持っていただき、好意的に協賛いただくことができた。

同時進行でプログラムノートの作成を行うことになったが、生徒たちの多くはプログラムノートの存在する演奏会等を体験したことがない生徒であり、そもそも「プログラムノートとはなにか」から始まることになった。しかしながら、生徒たちは自らプログラムノートの在り方や書き方など、本音楽祭にふさわしいものはどういうものかを考えつつ、演奏される曲を何度も聴きこみながらプログラムノートの作成にあたった。作成する過程でChatGPTなどのAI等を活用したが、最終的には「自分たちの言葉で」と、部顧問や実行委員会の幾度にもわたる推敲を経て完成へ至った。作成に携わった生徒に芸術（音楽）を選択していない生徒も多くいたが、「ひとつの曲を語ろうと思ったら、曲以外のこともたくさん知らないといけない」と実感でき、生徒は音楽に対する一つの触れ方を体験することができた。

告知については町と協力し、町内放送等も活用し告知等を行った。本校では生徒主体で運営しているInstagramがあるため、当該運営チームと協力しながら情報の発信を行った。

本番前日は朝から現地に赴き、実行委員会メンバーの指導の下、反響版の組み立てを行った。作業工具に初めて触れる生徒も多かったが、生徒同士で協力したこともあり、前年度より早く組み立てを終えることができ、ピアノ調律の時間を多く確保することができた。

その後は担当生徒によってホール音響、照明のセッティングを行いつつ、司会生徒の立ち位置の確認や、タイムテーブルに沿った動きの確認を行った。その他の生徒は、ステージ上生花の作成や受付の設置、配付プログラムの準備等を行っていた。

午後になり演奏家（ピアノトリオ3名）が到着すると、ステージマネージャー生徒、司会生徒が演奏家との打ち合わせに入った。生徒は動き方について演奏家に提案する場面もあり、演奏家の感心を得ることもあった。一通り確認等が終わると、演奏家の本格的なリハーサルを鑑賞し、前日の活動を終えた。

本番当日も朝から現地に赴き、直前の準備から始まった。演奏家が到着すると、直前のリハーサルを鑑賞することになった。大倉正之助氏のリハーサル中、大倉氏の希望により鼓の演奏を本校生徒も加わって行うことになった。それまでは地元の小学生のみが参加することになっていたが、生徒たちは戸惑いながらも大倉氏の指導により鼓の組み立てに挑戦し、小学生とともに鼓の演奏に励んだ。

リハーサルが終わり、開場時間を前に多くの来場者が会場入口で待っていたが、生徒たちは実行委員会と協力し来場者のおもてなしに努めた。急な悪天候にもかかわらず、生徒たちは設置していたテーブルやイスなどを積極的に移動し、来場者が困らないよう行動していた。

開場時間になり、200名を超える来場者の受付はすべて生徒で行った。事前に手作りした整理券の番号に従って、生徒たちは来場者が円滑に入場できるように努めた。大きなトラブルもなく、生徒たちが町外からの来場者に声をかけられる場面もあった。

音楽祭の進行は実行委員会の指示の下、原則生徒が行った。司会生徒の挨拶からはじまり、演奏者の紹介等を行いながら進めていった。生徒たちは終始緊張していたが、終了後アンケートにも「高校生が運営している姿はすばらしい」とお褒めいただき結果となった。音楽祭は無事終了し、演奏家や来場客双方から好評いただいた。

成果として、期待されていた人材育成の面では大きなものになったと考えられる。本校では2月に「加計高発！体験活動報告会」を開催するが、音楽祭に関わった生徒が報告会運営の中核を担うことになった。生徒たちは音楽祭での経験を活かし、報告会の動きが円滑になるよう方々と折衝しながら準備を行った。また、音楽祭終了後も地元住民や協賛いただいた企業からお声がけいただく機会が多くあり、高校生と地域のつながりはさらに深まったと考えられる。

7 活動の様子など



地域貢献	全国募集・世界募集
高校時代にかわいがられた生徒は社会貢献します！ 人柄の良い生徒・先生・地域に囲まれて 過ごす3年間は、あなたの人生を大きく変えます。	新築の登壇前（町から支援） 男女とも入寮できます！
2024 あきおた国際音楽祭 ～太田川の源流の町から 至高のしらべを～	
10月27日 安芸太田町戸内ふれあいセンターで開催された音楽祭に加計高校軽音楽部の生徒が協力しました。音楽祭の企画段階から関わり、前日の準備、当日の司会・受付・案内などの運営までを行いました。第1部は安芸太田町の子供たちとの共演で能楽師 大倉正之助さん（太鼓）の演奏、第2部は水谷亮さん（ヴァイオリン）、横坂源さん（チェロ）そして、加藤洋之さん（ピアノ）の演奏会でした。このようなイベントに企画から運営まで携わることができ、とても貴重な経験となりました。加計高校生だからこそできる体験です！！	



「魅力作り」推進4項目 現在進行形 ① 地域活動（探究・ボランティア等） ② 国際交流（ハワイ・韓国・ベトナム等） ③ 主体的学び（ICT活用・プロジェクト等） ④ 応募活動（各種コンクール等）	■ ルールを守る ■ マナーを守る ■ 日本の心を守る	かわいがられ 地域貢献できる 人材育成
---	-----------------------------------	---------------------------